



ソフトボールは、小学校3年生の時に父と兄がやっていたので始めました。最初は男の子のチームでやっていたけれど、6年生の時に女の子のチームに入ってからやりました。野球はやるうとは思わなかったですね。やっぱりソフトボールの速さ、ベース間の距離が近いので走った時のスピード感とかに魅力を感じます。

中学3年生のときに、憧れだった強豪校の先生が赴任してきて顧問の先生になり、初めてノックを受けた時はすごく嬉しかった思い出があります。

一つ上の先輩に「花咲徳栄の練習があるから来ない？」って誘われて、練習に参加しました。その時に花咲の監督に「うちに来ないか」って声をかけられて、中3の夏には高校を決めました。実際に入ると練習はすごく厳しくて、大変でした。特にグラウンドをダッシュで3周走るのはつらかったです。でも、強いチームで大好きなソフトボールができるので嬉しかったです。

高校最後の年に、キャプテンをやらせてもらいました。正直最初はキャプテンをやるのは、嫌でしたね。チームのことで私が悪くなくても、キャプテンである私が怒ら

れるし、他の子が怒られて練習をやらせてもらえなかったり、ソフトボールをやめることも考えました。でも、そんな私を思いとどまらせてくれたのが、両親であり当時のチームのマネージャーでした。両親は「やれるところまで頑張れ」って励ましてくれたり、マネージャーは私の話を聞いてくれて一緒に頑張ろうって言ってくれたのがすごく大きかったです。

だから高校卒業後、ソフトボールをやめるという選択はなかったですね。大学はお金がかかるし、それほど勉強も好きではないので、進学は考えていませんでした。埼玉の力になりたいと思い、戸田中央総合病院のセレクションを受けて入りました。

2020年東京オリンピックピックでソフトボールが復活するかもしれない。だから新たな目標として、日本代表に選ばれてオリンピックを目指していきたいと思っています。

子供たちへ アスリートからのメッセージ



小さいころから続けることで最後は力になってくれると、自分がどうありたいか、どうなりたいかしっかり考えて、強い気持ちを持ってあきらめない。そうすれば、たとえそれがスポーツじゃなくても自分の力になります。

ソフトボール(内野手) 上原 依万里

戸田中央総合病院女子ソフトボール部

写真：南慎二 文：本誌編集部

強い気持ちを持って 東京オリンピックを目指す!

1993年7月6日生まれ。埼玉県熊谷市出身。小学3年生の頃からソフトボールを始め、走攻守揃った選手として注目されている。花咲徳栄高校時代はキャプテンを務め、インターハイ予選で強豪星野高校を破って決勝に進出。準優勝に貢献した。戸田中央総合病院では副キャプテンに就任し、チームの中心として欠かせない存在である。